

グループ B 効果的な学校運営協議会の在り方について

1 地域を取り入れた教育課程の上手な編成方法

- 学校運営協議会の熟議の場が活用しましょう。
- 教職員研修で地域巡りを取り入れましょう。
- カリキュラムづくりのプロジェクトを編成しましょう。
- 現行の年間指導計画に加筆していきましょう。
- 連携機関や連携学校・園との情報交換や研修会を実施しましょう。

2 学校の教職員をやる気にさせる方法

- 効果的な研修の場を設定しましょう。
- 学校の教育目標、グランドデザインの中核に CS を位置づけましょう。
- 地域との連携・協働を進めるための窓口、相談相手を明確にしましょう。
- 教職員の自由裁量の時間を増やしましょう。
- 情熱的な校長のリーダーシップを発揮しましょう。

3 地域のキーパーソンの見つけ方

- 地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)に気軽に依頼しましょう。
- 地域の公民館や地域関係組織・団体とのつながりを大切にしましょう。
- PTA を活用しましょう。
- 自治体の情報を参考にしましょう。
- キーパーソンになる人材を育てていきましょう。

4 教育行政や地域コーディネーターとのやりとりで苦勞したこと

- 打合せの時間の確保
- 学校現場の理解
- 形式的なシステム
- 経費的な問題
- 思いの共有

※ その他(事前の質問事項から)

○ 効果的な運用について悩んでいます・・・

学校運営協議会でのテーマがポイントです。また、熟議を導入して、学校運営協議会委員以外の参加も効果的です。事前にテーマを知らせておくことが効果的です。また、話し合っ
て決めて、実践したことが見える化する取組も効果があります。

○ 事務職員としての役割について

心身の健康		自己のアイデンティティ・バランスを切り、心身の健康の維持・増進を図る。		心身の健康の維持・増進を図る。	
対人関係力	感謝の心を持ち、相手を大切にするとともに、気持ちのよい接し方を心がける。	相手の考えを柔軟に受け止め、自分の考えを分かりやすく伝える。	様々な立場の人々と積極的につながり、臨機応変に対応する。	コミュニケーション力を生かし、円滑な人間関係づくりに努める。	よりよい人間関係を築くために、連絡・調整の中心的存在となる。
信頼構築力	学校間、地域及び関係機関と積極的に関わる。	学校間、地域及び関係機関と積極的に関わり、適切な対応ができる。	学校内外の教育資源が効果的に活用できるよう、関係機関との調整を図る。	学校と関係機関とのつながりを深め、折衝の中心的存在となる。	校長を補佐し、学校・家庭・地域の協働関係を創る。
協働性	報告・連絡・相談を行い、助力を得て課題を解決する。	自己の役割を主体的に果たし、連携して課題を解決する。	中堅層の役割を担い、課題解決に当たる。	全体の動きを見ながら、状況に応じた指示や支援を行う。	村長等の視点から助言や支援を行い、協働体制を確立する。
組織貢献力	組織で対応することの重要性を理解する。	組織の一員として、与えられた役割を担い、責任を果たす。	自分ができることを考え、積極的に取り組む。	中堅層の役割を担い、課題解決に当たる。	組織マネジメントを生かしてチームを引っ張り、管理職としての責任を果たす。

事務職員でありつつ、学校運営協議会で大きな役割を果たした方が少なくありません。事務職員は、人事や財源に関しての一

定の権限を校長の監督の下で行っています。また、教員と違って、子どもたちと直接かわらないことで、距離を置いて、子どもたちや学校の教育を見ることが出来ます。また、地域の方や他校等との窓口も行ったりしています。多くの情報源が蓄積されています。

○ 兼業について

経費が発生する場合がありますが、ほとんどの場合、兼業申請さえしておけば、問題は生じた事例は聞いたことがありません。非常勤的な立場なので問題はないのですが、気になれば、教育委員会に問い合わせるといいでしょう。

これからの学校は、「為すことによって学ぶ」教育をダイナミックに取り入れていくことが求められています。この方法がベストであり、標準であるという考え方から脱却しなければならないと思います。まずは、子ども、そして、地域や家庭の実態に応じてコミュニティ・スクールは運用されていくべきです。オリジナルがベターでありベストな CS です。



9.27「ともに進める」コミスク学習会 講評資料

☆ 地域とともに進める授業づくり(東温市立北吉井小学校)から学ぶこと

1 「社会に開かれた教育課程」の具現化の在り方

- 「社会に開かれた」⇒「地域を生かした(開かれた)」への明確な方向づけ
- 地域との共有理念を生かした教育課程編成・実施
- 学校運営協議会委員の意欲喚起と学校運営協議会機能の充実
- 地域学校協働活動本部と一体となった地域資源の活用
- 学校と地域のつながりの再確認

2 期待される地域連携教育推進主任

- 学校運営協議会におけるオピニオン・リーダー
- 地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)との連携・協力体制
- コミュニティ・スクールを有効活用した授業づくり
- 地域との連携・推進教育活動に対する教職員への意識啓発
- 地域のチカラを生かした総合的な学習の時間のカリキュラム・デザイン

3 子どもたちの学びと成長

- 未来・ふるさを見つめた人材育成・キャリア教育
- 地域での居場所づくり
- 多様な人たちとつながる経験
- 学校外での学びの充実
- アイデンティティとエージェンシー



PDCA
から
AARへ

この先生だからできる実践でなく、どの学校でも取り組んでいくことが出来るようにするためには、「社会に開かれた教育課程」の実現をだれもが目指していくことが大切となります。また、「地域とともにある学校づくり」は、学校経営の視点からだけでなく、子どもの成長の視点からも明確にすることが必要となります。子どもの成長には、多様な人々とつながる経験、学校での学びを発展させる工夫(知識を知恵にすること)、五感を生かした感性を育む体験、ふるさとのよさを実感する環境などが必要になってきます。VUCA の時代、子どもたちが自ら考え判断し、他者と力を合わせて、行動するには、何が必要かを考えていきたいものです。そのためには、学校のシステムを見直していくことから始めたいものです。(遠藤)